

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)総括表

◆取組みテーマ別取組状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	9	・75歳以上の高齢化率が高く、見守り活動は不可欠であるため、独居高齢者への訪問活動を毎週実施した。【花見川】 ・民生委員を中心に町内自治会と連携し、見守り活動実施した。また、運営委員会を年4回開催し、活動状況の確認を行った。【こてはし台中】 ・地区部会と町内会が協力し、要支援者への支援体制を充実を図った。【幕張武石】
2 高齢者を支える仕組みづくり	7	・できる範囲で、支え合い活動を実施した。また、広報紙を発行し、PR活動にも努めた。【花見川2】 ・ご近所たすけあい活動を継続実施した。【さつき】
3 障害者を支える仕組みづくり	3	・計画していた事業を中止とした代わりに、障害者を対象とした「ふれあいコンサート」を実施して、障害者の外出する機会や歌を聴く楽しさを提供した。【朝日ヶ丘】 ・個別支援を中心に、ユニバーサルデザインの地域づくりに努力した。【さつき】
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	2	・こども食堂が開催できなかったため、フードパントリー(無料で食品を提供)を実施した。【檜橋】 ・子どもの貧困対策として、小学校2校を通じた就学支援補助金を実施した。【花見川】 ・民生委員、主任児童委員、保健福祉推進員等と協力し子育てサロン(4地区4箇所)を実施した。【花園・檜橋・天戸・さつき】
5 健康づくり	2	・多種多様なサロンを継続実施(令和3年度末85サークル)しつつ、健康講話やウォーキング、健康体操等を取り入れた健康寿命延伸の取組みも行った。【花見川】 ・いきいきサロン(8地区78箇所)や散歩クラブ(3地区10箇所)を実施した。【(いきサロ)花園、檜橋、幕張武石、花見川、朝日ヶ丘、こてはし台、天戸、さつき、(散歩)檜橋、花見川、こてはし台】
6 防犯・防災に対する取組み	5	・新たな助成金を申請し、地域の防犯防災パトロールの強化を図った。【花見川】 ・民生委員、青少年育成委員、保護者による合同パトロールを継続実施した(令和3年度は警察と行政から表彰を受けた)。【さつき】
7 担い手の拡大とボランティアの促進	8	・担い手のステップアップを目的に、介護予防や認知症予防のための講座を開催した。【幕張武石】 ・コロナ禍においても担い手の定例会は継続実施し、サロン同士の情報共有や活動再開に向けた検討等を行った。【天戸】
8 福祉教育・啓発	12	・管理・運営している農園に園児・児童を招き収穫体験を実施した。【さつき】 ・公園の清掃・除草・整備活動が市長より「社会貢献」として表彰を受けた。【花園】
9 地域のつながりづくり	11	・健康課、あんしんケアセンター、いきいきプラザ、社協と連携し、健康講話やウォーキング、健康体操等を取り入れた健康寿命延伸の取組みを推進した。【花見川】 ・地域ケア会議に積極的に参加し、地域の意見を発信した。【こてはし台】
10 相談支援体制と情報提供の充実	2	・花見川区内の地区部会エリア別人口構成、動向やコロナの感染状況の発信を行った。【花見川】 ・ホームページを通じて、地域の情報発信を継続実施した。【こてはし台】 ・10地区において、地区部会の広報紙を発行し地区部会活動のPRを行った。【花園、檜橋、こてはし台中、幕張武石、花見川、朝日ヶ丘、こてはし台、さつき、幕張本郷、畑】
今年度の振り返り	61	超高齢社会の影響による地域の担い手不足や担い手自身の高齢化の問題は以前からの大きな課題となっていたが、コロナの影響による地域活動全体の停滞の継続が、担い手のノウハウの継承やモチベーション維持の妨げとなっており、この状況が続いていくと地域活動の衰退にも繋がることが危惧される。

今後の課題と方針	地域活動の停滞が続く中、いかにしてコロナ以前の活動を取り戻すかが大きな課題である。コロナの感染対策の徹底はもちろんであるが、新しい生活様式を取り入れた活動の実施も検討していきたい。
----------	--

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日		主な議題等
令和3年度	第1回 8月11日(水)	(1)委員長・副委員長の選任について (2)「花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)」について (3)「花見川区支え合いのまち推進計画の推進計画(第5期花見川区地域福祉計画原案)」について
	第2回 10月20日(水)	・「花見川区支え合いのまち推進計画(第5期花見川区地域福祉計画原案)」について

◆区の地域福祉に関する好事例等

花見川地区部会エリア			
取組内容	子どもの貧困対策	重点取組項目としての設定	なし
子ども食堂や放課後の学習支援が一部地域で実施されているが、花見川地区部会は活動エリアが広く、しかも高齢化による担い手不足の問題から子ども食堂等の活動はできる状況にない。しかし、子どもの貧困対策には取り組んでいきたいという思いから、地域差による不公平感がなく、比較的簡単に実施できる就学支援補助金を実施した(平成30年度より)。 ☆対象児童:生活保護世帯、準要保護世帯 ☆対象児童学年(令和3年度):小学3～6年生 ☆支給額:3,000円(1名) ☆令和3年度実績:柏井小13名、花見川小32名 合計45名 ☆配布方法:各小学校を通じて配布(地区部会には配布者情報なし) ※令和4年度は、対象児童学年を1～6年生に拡大予定			

花見川地区部会エリア			
取組内容	健康寿命延伸プロジェクト	重点取組項目としての設定	あり
地域の75歳以上の高齢者が急増していることから、高齢者がいつまでも自立できるよう、令和2年度より健康寿命延伸を目的としたプロジェクトを立ち上げ、ウォーキング、健康体操を取り入れながら健康寿命延伸に取り組んでいる。プロジェクトに参加している時だけでなく、日常生活における健康寿命延伸対策も呼びかけている(ウォーキング 5,000歩/1日、朝晩に健康体操を実施)。また、この活動は見守り活動の見守る側の負担軽減を図ることも目的にしている。			

朝日ヶ丘地区部会エリア			
取組内容	障害者「ふれあいコンサート」	重点取組項目としての設定	あり
毎年、障害者「ふれあいバス旅行」を実施し、障害者やそのご家族の方の楽しみの一つとなっていた。しかし、コロナの影響で令和2年度は中止、令和3年度も実施困難な状況であったため、代わりに朝日ヶ丘公民館で、障害者やそのご家族の方向けの「ふれあいコンサート」を実施し、歌を聴く新たな楽しみの機会を提供した。			

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

資料 1

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
検見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 12419人、6527世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 19.8% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町	⑥ 地域福祉活動の担い手を育成するために区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの育成・ボランティア活動の推進に努めるとともに、活動を周知し、幅広い分野におけるボランティア体験や地域活動への参加を促すなど、若者や企業ボランティア、高齢者パワーなどを活かし、人材の育成・活用に努めます。	7	・引き続きボランティア募集のための声かけ、講座開催の方向で進める。	令和3年度に計画した事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、すべて中止となった。	・各事業の休止が続いている中、ボランティアや講座を受ける方達の状況も変化(高齢化など)しており、今後の活動再開に向けた不安材料がある。	ふれあい食事サービス、ふれあいいきいきサロン、ボランティア講座の開催等、2年前のコロナ前の状況に戻すように努めたい。
⑨ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます。また、自然災害等による被害を軽減するため住宅の耐震化や家具などの転倒防止、食品の備蓄等に努めます。	6	・避難所運営委員会に対して、地区部会として何が協力できるのかを検討の上、協力していく。	検見川小学校・検見川公民館避難所運営委員会の事業への協力を行った。	・避難所運営委員会については、歩みは遅いが、少しずつ動き出している。今後、地区部会として何をどこまで協力していくのかというのが課題である。		
花園地区部会エリア 【人口・世帯数】 20959人、9759世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 23.1% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地(高層マンション群を含む)からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	コロナ禍で活動再開の見通しは立てづらいが準備はしていく。「日常対応」の強化、「避難所の使用範囲と使用方法」の理解促進、訓練、イベントの再開	1 重点取組みについて 令和3年度もコロナの影響が大きく、具体的な実行が望めなかったこともあり、回復後の準備を計画を主とし、普段行ってきた活動の視点を、啓発活動を重点とした取組みにシフトした。効果の把握は難しいが、足跡の見える活動と考えている。 (1)「花園おせっかい」の継続 リーフレット、ポスター、部会日より、自治会回覧、掲示板、集会所、店舗、「おせっかいシリーズ」5回発行 (2)花園地区部会日より 年3回、各700部発行 各所に配布 (3)避難所に関する情報交換、避難所開設訓練 具体的な活動に至らなかった (4)健康福祉委員会が主催するグラウンドゴルフ開始前に実施するムクドリ公園の清掃・除草・整備活動が市長より「社会貢献」として表彰を受けた。 2 花園地区部会の伝統的な活動について (1)敬老会 令和3年度は中止とした。 (2)子育てサロン 人気のある活動だが、本年度は年9回実施、85組 延197名が参加 (3)親子の集い 折り紙教室1回 (4)むくどり公園の清掃とグラウンドゴルフ 年36回実施、延619人が参加 (5)いきいきサロン 年79回実施、延619人が参加 年間ボランティア 延159人 (6)広報 花園地区部会日より 年3回発行	1 重点取組みについて 見守り活動の「花園版」として「花園おせっかい」は、自治会に負うところが多いのに、コロナ禍の制約をまともに受けている状態である。 そこで、自治会の力を借りて、手段としては少々古いかもしれない回覧や掲示板によるリーフレット、ポスターによる啓発活動を行っている。 保健、福祉も、防災も取り上げて、仲間意識の向上に役立てたいというのが狙いである。 ・避難所に関しても主力は自治会で、社協独自の活動はないのが実情である。 ・コロナ禍が2年も続く中でも、地区部会の活動は求めら求められていることは確かである。	1 重点項目について (1)「花園おせっかい」の継続 (2)避難所に関する情報交換 社協の持ち場・立場・対応方法・訓練参加など (3)イベントの再開対応 花園地区部会には地区部会が主催する伝統的な町ぐるみの活動として、大規模な「敬老会」や「ふれあい食事会」「春の音楽会」が、更に当会も参加する「花園ハスマつり」など、広範囲に福祉活動に通じるイベントがある。これらの行事がコロナ禍より全て長期間中止になっていて、われわれの活動に大きく影響している。 現在、制約は殆ど解除されているが、社会的な躊躇感も依然としてある。地区部会として、解除後の活動に向けて準備を進めていく。 敬老会については、再開の方向だが、会場のキャパシティにより、一堂に会することは難しい。方法として、分割、会場の分散、自治会ごとの開催等について検討中である。

※ 令和4年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 1

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
朝日ヶ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 10873人、5372世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 37.6% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。	⑤ 障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	コロナウイルス感染症の拡大の状況等を勘案し、可能な範囲で事業を実施していくとともに、あんしんケアセンターとも連携を図っていく。	コロナウイルス感染症の拡大による「蔓延防止等重点措置」が適用され、飲食を伴う従来の活動は自粛せざるを得なかったため、当初の事業計画は一切実施できなかった。代わりに蔓延防止等重点措置が解除された後、障害者を対象とした「ふれあいコンサート」を実施して、外出する機会が少ない障害者の方々に、歌を聴く楽しみを提供することができた。	地区部会の専門別委員会の活動の大半は、飲食を伴う事業(ふれあい食事会、ふれあい喫茶、障害者バス旅行)や、接触等密になってしまう(子育てサロン、ボランティア)活動であるため、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ほとんどの活動を中止とせざるを得なかった。また、あんしんケアセンターとの綿密な連携も、今後の課題となっている。	コロナウイルス感染拡大防止策により制限されていた社会活動が徐々に緩和されてきており、地区部会としてもコロナ以前に実施していた活動を再開していきたい。しかし、実施会場(各自治会館等)によっては、未だ貸出を一切実施していない所や、参加人数を従来の定員の半分以上に制限している所もあるので、全ての活動が従来の規模で再開できるかは不明な状況である。 令和4年度は、あんしんケアセンターや行政との連携を更に深め、地域の方にとつて気軽に相談できる環境づくりを実施していきたい。
犢橋地区部会エリア 【人口・世帯数】 10474人、5290世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 30.7% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	① 日頃から隣近所との挨拶などのコミュニケーションを図るとともに、既存の施設を有効利用した居場所づくり、親しみ、ふれあう環境づくりを推進し、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけとなるよう、地域のイベント、祭り、町内自治会行事等の周知に努めます。また、子ども・高齢者・障害者等と地域住民が相互交流できる機会を増やし、若い世代を含めた様々な世代間の交流を通して互いを理解し合うとともに、情報交換を促進します。	9	コロナの終息が見えないため、常に感染状況を勘案し、スタッフの健康面を最優先し、実施可能な事業に取り組んでいく。	コロナ禍のため、地区部会主催の行事や活動は控えざるを得なかった。各町内自治会毎に感染に留意しながら、できる範囲でサロンや散歩、子育てサロン等を行った。	感染防止の観点から、飲食を伴う行事は開催できないため、個々の自治会ごとの行事に集約せざるを得ない年だった。	飲食を伴わないのでできる行事を中心にやれる事から実施していく。(例えば落語会、ゲーム、講話など)
こてはし台中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 5505人、2343世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 30.3% 【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村	④ 子どもの健やかな成長のため、福祉意識を醸成(福祉教育の充実)する取組を推進するとともに、子育て世帯の孤立防止や見守り活動の推進、子どもの貧困や虐待・DVの早期発見、関係機関への連絡などに努めます。	1,4,8	民生委員に加え、町内自治会との連携強化を図り、活動を継続実施していく。	引き続き、民生委員を中心に見守り活動実施した。見守り活動運営委員会を兼ねた常任理事会を年4回開催し、各民生委員の活動状況の確認を行った。施設への入居などで対象者は41世帯(スタート時は43世帯)となった。コロナ禍でワクチン接種情報の提供などにも力を入れた。見守り担当者用にマスク、除菌スプレーを配布し、感染対策を行い活動を行った。	対象者を広げる活動に着手できなかった。民生委員中心の活動から町内自治会との連携に拡げていく工夫が必要である。	対象者のお隣さんをネットワークに組み込んでいく仕組みづくりと、対象者への情報発信の具体化を図っていく。

※ 令和4年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 1

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
幕張・武石地区部会エリア 【人口・世帯数】 4943人、2510世帯 【町内自治会数】 3町内自治会 【高齢化率】 24.0% 【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	会員相互のステップアップのため、各種講座を実施し、各機関との連携を図る。	・地区部会と町内会が協力し、要支援者への支援体制を充実することができた。 ・会員のステップアップのための講座として、花見川いきいきプラザ職員の指導のもと、認知症予防のための講座を実施した。 ・いきいきサロンについては、「地区部会活動再開に向けてのガイドライン」に沿って実施できた。	コロナ禍において、地区部会活動が思うように実施できなかった。特に食事は、飲食に伴う感染発生への懸念から、一度も開催できなかった。また、食事会のボランティア自身も食事会の開催について、とても慎重になっている。	・会員相互のステップアップのため、各種講座を実施し、各機関との連携を図る。 ・ウィズコロナのもと、地区部会の各種事業を実施することにより、高齢者の見守りや安否確認に努める。
花見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 10936人、5658世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 40.4% 【地域の特徴】 戸建住宅(昭和30年代後半より入居)、農林地帯、UR団地(分譲)、マンション群の混在地域。	住民自ら健康への関心を深めるとともに、イベントや講習会、スポーツ、サークル活動など健康づくりの機会への積極的な参加や心身の健康づくりに取り組むとともに、体操・サロン等を通じた日中の居場所づくりや講演会など介護予防活動の推進に努めます。また、糖尿病対策として、標語やポスターの掲示など啓発に努めます。	5	・コロナ禍の中、いつ活動が開始できるか不透明であるが、取り組みが消えないよう努めるとともに、屋外活動に誘導したい。 ・自治会は新年度に入り新しい構成で見守り活動も出発した。前年度の反省点を鑑み、活動の強化を図りたい。 ・高齢化率50%でも活動できる方策を考えたい。	多種多様なサロンを継続実施しつつ、新規サロンも開設し、健康づくり、外出機会を創出した。 令和3年度の四半期ごとの活動率は以下のとおりであった。 第1期活動率 58.6% 第2期活動率 56.3% 第3期活動率 67.1% 第4期活動率 63.5% サークル数は3増5減となり、令和3年度では2減となった(令和3年度末85サークル)。 また、令和2年度から健康寿命延伸を目的としたプロジェクトを立ち上げ、ウォーキングや健康体操を取り入れながら健康寿命の延伸に取り組んでいる。	完全に新型コロナウイルスに左右された1年であった。 高齢化と地域活動の停滞に伴う意識低下をどう立て直すかが、大きな課題である。	コロナも減少傾向にあり、社会全体が動き始めている傾向にあることから、コロナ以前の状況を取り戻すべく、取り組んでいきたい。 そのためにも、感染防止対策に努めたうえで、対面での活動を重視していきたい。
	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9		花見川区地区部会エリアは高齢化率が高く(75歳以上の高齢化率 花見川住宅分譲6&7街区…31.3%、柏井町・柏井1&4丁目…22.7%、横戸町…19.0%、花島町…26.9% 令和3年12月31日現在)、高齢者の見守り、安否確認が必要不可欠な地域の一つになっている。 鷹の台自治会では、週1回、2人1組体制で21名の対象者(令和4年1~3月)の見守りを実施。 千代の台自治会では、月1回、3人1組体制で、17世帯(独居、高齢家族)の見守りを実施。 また、地区部会エリア内の18町内自治会は、緊急通報システムの設置促進も図り、高齢者の見守り体制を推進している。		
	日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます。また、自然災害等による被害を軽減するため住宅の耐震化や家具などの転倒防止、食品の備蓄等に努めます。	6		・各避難所の該当自治会調査を行った(避難所5ヶ所、17町内自治会)。 ・千葉県社会福祉協議会の「千葉県地域ぐるみ福祉振興基金助成金」を申請し、防犯防災パトロールの推進と避難所運営委員会の活動促進努めた(令和3年12月より)。		

※ 令和4年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 1

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
花見川第2地区部会エリア 【人口・世帯数】 10655人、6090世帯 【町内自治会数】 7町内自治会 【高齢化率】 42.5% 【地域の特徴】 花見川団地を中心とした住宅地。地区内には図書館、市民センター、児童福祉センターなどが整備されている。	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 ③ また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	できる範囲で、支え合い活動を継続するとともに、担い手確保のための広報、講座の実施などを検討する。	・できる範囲で、支え合い活動を引き続き実施した。また、「ハンドハンドだより」を発行し、PR活動にも努めた。 ・各町内自治会単位で、郵便ポスト等を確認するさりげない見守りを実施した。 ・コロナ禍で、会食による食事会の開催ができなかったため、対象者に弁当の配布を行った。 ・コロナの影響で、地区部会のほとんどの活動を自粛したため、新たな担い手確保に向けた活動は思うように進まなかった。	・地域全体の高齢化に加え、コロナ禍における活動自粛の影響もあり、担い手不足や担い手のモチベーション確保の問題が懸念される。 ・サロンや食事会などは、参加人数がとて多いため、コロナ禍における今後の地区部会活動をどのように実施していくのか、検討を要する。	支え合い活動や見守り活動を継続実施していくと共に、地区部会活動の再開に向けた検討を行い、担い手確保や担い手のモチベーション確保に向けた取組みも行っていきたい。
こてはし台地区部会エリア 【人口・世帯数】 5911人、2871世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 47.4% 【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心(テラスハウス25%)の住宅街。	日頃から隣近所との挨拶などのコミュニケーションを図るとともに、既存の施設を有効利用した居場所づくり、親しみ、ふれあう環境づくりを推進し、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけとなるよう、地域のイベント、祭り、町内自治会行事等の周知に努めます。また、子ども・高齢者・障害者等と地域住民が相互交流できる機会を増やし、若い世代を含めた様々な世代間の交流を通して互いを理解し合うとともに、情報交換を促進します。 ①	9	① 令和2年度に「居場所づくり」にふさわしい場所が確保されたことを前提に、開催に向けての検討を計画したが、急遽この話が取り消しとなり、振り出しに戻ってしまった。再び、場所の確保に取り組んだが、進展はみられなかった。	① 令和2年度に「居場所づくり」にふさわしい場所が確保されたことを前提に、開催に向けての検討を計画したが、急遽この話が取り消しとなり、振り出しに戻ってしまった。再び、場所の確保に取り組んだが、進展はみられなかった。	①居場所づくりの取り組みが振り出しの形となったことは残念だが、当地区は空き家、空き店舗などもあるため、引き続き「居場所づくり」にふさわしい場所探しに努める。	①居場所の開設、②地域ケア会議への参加、③ホームページの充実、この点を再度、地区部会の活動方針の重点項目として掲げ、取り組んでいく。
	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 ③ また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	①居場所の開設、②地域ケア会議への参加、③ホームページについての地域への周知について、地区部会の活動方針の項目に掲げ取組を行っていく。	② 地域包括ケアシステムの構築に向けた地域ケア会議が令和4年1月に開催され、参加した。今回の議題は、「居宅サービス訪問時における駐車の問題について」であった。迷惑駐車扱いを受けるなど、介護事業にも影響が出るなど、課題は深刻で、地域内での問題の共有が必要である。 地域ケア会議には、今後も積極的に参加し、発言を行っていきたい。	②地域の支え合い活動を推進する当会としては、居宅介護サービスがスムーズに受けられる環境づくりに努める必要があることから、今後も地域ケア会議に参加し、積極的な発言も行っていきたい。	
	社協地区部会や町内自治会等が、地域における団体活動を充実するため、社会福祉協議会、あんしんケアセンター、行政等が連携し地域を支える様々な福祉情報等の共有と、わかりやすい情報として発信・受信するための仕組みづくり、住民相互の気軽に相談できる場を確保するとともに、団体同士の連携・協力により組織強化に努めます。 ⑦	9,10	③ 地域の公共施設などへ働きかけ、ホームページの内容充実を図る計画であったが、十分な取り組みができなかった。 また、若い世代向けに「住みよい環境の街」を発信するための編集を行ったが、発信までには至らなかった。	③ ホームページへの取り組みは不十分であったことを反省し、担当者の増員も検討し、充実を図っていきたい。		

※ 令和4年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 1

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
天戸中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 17203人、7845世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 33.0% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	② 住民自ら健康への関心を深めるとともに、イベントや講習会、スポーツ、サークル活動など健康づくりの機会への積極的な参加や心身の健康づくりに取り組むとともに、体操・サロン等を通じた日中の居場所づくりや講演会など介護予防活動の推進に努めます。また、糖尿病対策として、標語やポスターの掲示など啓発に努めます。	5	地域が広範なこともあり、18町内自治会全てを巻き込むことは調整等の面から難しいため、先行して数か所の自治会と連携しながら課題となっていることに引き続き取り組んでいく。	令和3年度は、コロナ禍のため、地域内の学校行事への参加、いきいきサロン・ふれあい食事サービスなど開催の他、計画していた新規事業等も含め、多くの活動が十分に行うことができなかった。 コロナ禍の中、地区部会の福祉活動推進員を中心とした「地域福祉推進員懇話会」の月例会は、10年以上、1回も休むことなく続けて開催されており、令和3年度に120回目の開催を迎えることができた。	継続的なラジオ体操の開催に向けて開催場所の選定、スタッフの選任を行っていたが、開催により発生する諸問題の検証のため、実施には至らなかった。 福祉施設に対する地域住民の理解や関心を得るための状況提供として、広報紙の定期的な発行やホームページによる継続的な周知活動が必要であると考えている。 地縁団体により防犯活動に対しての温度差があり、現状では調整が難しい状況もあるが、防犯意識の向上、意識の平準化への努力が必要と考えている。	地域内16地縁団体の地域福祉への考え方には温度差があり、地区部会活動を理解していない地域住民も多い中で、全地縁団体が足並みをそろえることは現状では難しいため、コロナ感染症終息状況を見据えながら地域福祉活動ノウハウの継承、継続を担保するためにも、ご協力いただける何か所かの地縁団体と連携して福祉活動の取組みを民児協と共に日常を取り戻すために、再開していきたい。 民生委員による高齢者実態調査は、5月からの再開を予定している。 事業の再開にあたり、行政からも感染防止のガイドラインによる指導が必要と考えている。
⑤ 障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	コロナ禍の中、地域の障害者施設「栗の木」、介護施設「ぷらりっ」とをはじめ、施設のイベント等への参画が制限されたため、ほとんどの行事への参画ができない状況であった。				
⑧ 地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	地域の防犯意識の向上や活動強化を目指して、行政からの防犯カメラ貸与、購入に対する助成、資機材補助・援助制度等について、各地縁団体への周知を図るとともに、活動普及の啓蒙活動が必要と考えているが、コロナ禍のため、十分な活動には至らなかった。				
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア 【人口・世帯数】 10478人、5266世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 35.2% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	⑤ 障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	事業を継続実施していく。	「フォーラム(講演会)」や「おひさまクラブ」、「福祉まつり」といった事業は、コロナの影響で全て中止となってしまったが、個別支援を中心に、ユニバーサルデザインの地域づくりに努力した。	長引くコロナ禍により、イベントの中止を余儀なくされ、活動が制限される中、地域から何を求められているかを探り、地域福祉の向上に努めていきたい。	
⑧ 地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	地区部会を中心とした合同パトロールを継続実施した。これまでの活動や、警察・行政とも協力関係を深めてきたことも事も評価され、警察と行政から表彰を受けることができ、一定の成果をあげる事ができたと考えている。				

※ 令和4年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 1

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
幕張本郷中学校区地区部会エリア	④ 子どもの健やかな成長のため、福祉意識を醸成(福祉教育の充実)する取組を推進するとともに、子育て世帯の孤立防止や見守り活動の推進、子どもの貧困や虐待・DVの早期発見、関係機関への連絡などに努めます。	1,4,8	・新規参加者向けには、地域保健推進員、保健センター育児サークルからの案内を強化し、月齢児、1歳児サークルへの周知方法が課題のため、再開に向け効果的な周知方法の検討を行っていきたい。	「赤ちゃんサークル」、「1歳児サークルノンノン」共に、令和3年度はコロナの影響で全て中止となった。なお、月1回の午前中に開催していた「1歳児サークルノンノン」については、無料サロン(月～土曜日 10:00～16:00 子育てリラックス館)ができた影響により、参加人数が極端に減少したことにより、令和3年11月付で閉鎖の決定をした。	今後は、「赤ちゃんサークル」のみの活動になるため、民生委員のボランティアスタッフの参加はなくし、児童母子福祉委員のみでの対応を検討する。	「赤ちゃんサークル」の開催場所である幕張台自治会館が現在、人数制限がかかっており、従来通りの受入(地域保健推進員による2ヶ月児訪問で皆に声掛けを行う)が難しい状況である。親子での参加にスタッフも含めて計算すると、現状では4～5組程度しか受入できないが、元々は15～20組の参加があったサークルなので、開催内容や参加募集の方法等、検討していく必要がある。
【人口・世帯数】 26065人、13400世帯						
【町内自治会数】 4町内自治会						
【高齢化率】 13.5%						
【地域の特徴】 JR幕張本郷及び京成幕張本郷駅を中心に沿線を挟んで両側に広がる町。戸建も多く、マンションも比較的多い。						
畑地区部会エリア	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	・事業を継続実施していく。 ・パトロールを可能な範囲で継続実施しつつ、「向こう三軒両隣」の意識した近助同士の防犯を呼びかけていく。	ゴミ出しの支え合い活動の事業は実施していたが、希望者はいなかった。	コロナ禍のため、高齢者と直接話す事が難しく、ゴミ出しや見守り活動の困難さを感じた。今後も、このような状況下で、できることを行っていきたい。	事業を継続実施していく。
【人口・世帯数】 6151人、2795世帯						
【町内自治会数】 6町内自治会						
【高齢化率】 32.5%	⑧ 地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	・事業を継続実施していく。	パトロールを可能な範囲で実施した。	コロナ禍のため、高齢者と直接話す事が難しく、ゴミ出しや見守り活動の困難さを感じた。今後も、このような状況下で、できることを行っていきたい。	事業を継続実施していく。
【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。						

※ 令和4年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。